

## <実技試験①個人分析結果>

いただいた答案の採点結果

**実技試験①：62点**

合格最低ライン：75点 合格目標ライン：80点

**合格最低ラインまで13点。あと一息です！！**

### <大問別の得点と得点率>

大問	配点	得点	得点率	出題内容
問1	29点	18点	62%	実況把握。主役である低気圧と前線を紹介。低気圧進行前面の天気の特徴として「移流霧」について尋ねる。
問2	31点	19点	61%	暖域内の寒冷前線、そして寒冷前線通過後の寒気による降水の比較。大問のなかでもっとも配点が高く、今回の実技試験の「核心」となる部分。
問3	8点	5点	63%	フェーン現象について。日本海低気圧が出題される場合、頻出の問題になっている。
問4	21点	10点	48%	名古屋に着目した問題。こちらも暖域内の降水と寒冷前線の降水を比較している。問2と関連が深い問題。
問5	11点	10点	91%	寒冷前線通過前後の天気の特徴と防災情報の問題。

合格ラインまであと一息です。

おそらく過去問題の解説をまだ十分に目を通されていないのではないのでしょうか。第31回実技1、第32回実技1には日本海低気圧の問題が出題されており、その類題がこの問題にも多く含まれています。そのため合格レベルに達する人なら80点は取れるはずですが、これらの問題をもう一度復習しましょう。

問1は(1)の単位抜けなどイメージミスが目立ちました。このようなミスはもったいないので**指さし確認をする**くらいのつもりで減らすことに努めましょう。

(3)③の霧の成因は頻出の問題です。あらためて霧の種類とそれぞれの発生原因を復習しましょう。なお、**頻出の問題は間違えると合格者と差が付く**のでお気を付け下さい。

問2はまず(1)寒冷前線の解析ミスが課題。位置はあっていますが、解答条件を守っていないために不正解となりました。問題文に「ただし」「なお」「～をもとに」「～に着目して」など書かれている場合は解答条件を示しているの、慎重に確認してください。

(3)もやはり解答条件を守っていないために減点されています。着目点は「降水量」「降水域の幅」「降水の形状」の3つ挙げられているにも関わらず、「降水の形状」しか書けていません。何を解答に求められているかをしっかり確認してから解答作業をしましょう。

問5は良くできていました。合格点です。

## <今後の課題>

### ①問題をよく読むこと

解答条件を守っていないために失点しているところが目立っています。こういったミスをできるだけ減らさない限り合格は難しいでしょう。ミスをしなことが理想ですが、ミスによる失点は5点以内に収めることを次回からの目標にしましょう。

### ②過去問題の徹底的な復習をすること。

解答をみると過去問の復習が十分でないと考えられます。現在、支援センターのホームページから過去3年分の問題がダウンロードできます。この3年分の実技は徹底的に復習して下さい。まだ解いていなければ、まず解くこと。もう何度も解いてしまって解答を覚えているくらいの状態ならば、解説を自分で作ってみてください。

以上を実践すれば、成果は点数にあらわれるでしょう。実技②以降で点数を上げていきましょう！

日本気象株式会社